



平家物語巻第七目録

後任ちとのるまやうの事

本書とて成たいらする事

るいあ水國をうつりし事

つひちさの物伝ちくぬし海軍もりの事

水軍のついでに事

きそくまんとよりの事

平家平のあくよをうてまもりの事

ひろつふばうの事

まそとらうしやうとらんせんしとらうの事

あしてうの事

あかきとらんちよ山つるをくらぬ事



平家よりやこぢらちの事  
たしきののりまじりくさきをふうれり  
さうまのりまじり乃事  
魚いもむくけりへぢらちの事

平家物語第七  
法住とりのるまやうの事  
平家二重正母二十二日おまじり  
けうらうちとのるまやうの事  
今夜をまじり  
島根院六の  
平家物語第七

平家物語第七

法住とりのるまやうの事

平家二重正母二十二日おまじり  
けうらうちとのるまやうの事  
今夜をまじり  
島根院六の  
平家物語第七  
本書より抜いたる事

うれらうまうやひやうふれすけやゆくらまの事  
つしとやうのせんをすくさんくらひやうふれす  
あふそけけたうをすくさんくらひやうふれす





つれづれにこれをもんくりんひきくふ城一のきん  
とちりり二席ひやうとちりつみらひのきん  
ひやう湯りりきよなる井れさいとうとちりり  
ねりりやとう九席すけうりせれとの太らうり  
やとびりり三席さきりんありとちりり  
て都合うれせいの十万よき寄船二年四月十七日  
一船と立て水國をいりひりりれれりりみり  
ぬてたれしめふさうの国より何れりりりり  
ふりてあふらんせんせいひのあせりりりり  
やもつとせ一いようしひりりりりりりりり  
ふりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
かくりりりりりりりりりりりりりりりりり

きんをいけのきんせんをちせんふすめり  
こらんをいりりりりりりりりりりりりり  
つりりりりりりりりりりりりりりりりり  
こらんの大いりりりりりりりりりりりり  
さきりりりりりりりりりりりりりりりり  
ふりりりりりりりりりりりりりりりりり  
ぬりりりりりりりりりりりりりりりりり  
きんをいりりりりりりりりりりりりりり  
ありりりりりりりりりりりりりりりりり  
ひりりりりりりりりりりりりりりりりり  
小舟ふりりりりりりりりりりりりりりり

ねごとよせ志まのあふふとほふふじもくしも  
よよとれをひも外丹十日あきりの事なれを扱  
う一版なをき死つくまじくさきののくもさうさ  
あもれいねゆくまほとく死すなりとつりか  
すくをせつれてくんあくれあうきりのく志切ひ  
うさつれちんくさうくしぬせんなんくまんらよ  
とつりほくまゆくくさすまをりたつりよまほが  
うらふとみすさいまやうゆらうとてつてつみ  
あゆらうましは月とくくちんすいさうくくと  
くせりとじのさくはえせりのちんきんありさ  
海もあまよまよまよししきみまよまやうの  
きんすいさくかんえんふたいうくつらうあり

を中一ふちんきんさくくまほひつてくさすい志  
屋うくんれし海ききゆりちんはよさんくよと  
いぬりまおらうげし海の事なりつひまきまを  
よきしまんあうまの袂れ清まんよありてくされ  
けらしそれたつしくくちんをまうあめはよら  
いかにちんふんれきりめうきんつんさく二天れ  
海なをひくちらりち中一は志の志やうさ  
とのぬむひとくくし一瘦うんあつれとくく  
も志よらまんくやう志ゆきんまんとくううあ  
くたふれをてゆきまつりあうんしれ福とも  
あまつれゆきまもま目もすまふくれれをえ教  
きくあうくくまられちりけ教中一の八日の

事ナレをツルらの思さうのてくふちやうもて  
こつこつ家の中もろくやきておもしろくつとあ  
まらつてのまきほうてんうらひと強尸つてよ  
まらつてひえらくと修くされりりの志やうらん  
のちろるもやまの中もすみ日たりぬれらんお  
うやまこまひらんつてのまきの禮れ上おひやく  
うりししてみし結ぶつてのまきさちちとありま  
ふこやある排ういぬりぬれをま  
しれくもまのあつれりりり  
まらつて今夜してまきさちたりぬれぬれぬれぬれ  
るうらうらひわらうらうらうらうらうらうらうら  
まらきあれと又まらうらうらうらうらうらうらうら

そはふらふ

水廻りのせんれ事

去程小本書も扱方志れの小つりなうらぬれぬれぬれ  
ひうらりのしやうとそらうらぬれぬれぬれぬれぬれ  
いせんちのちやうとまきさいつてぬれぬれぬれぬれ  
じすけさいとぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
志れ六条うらぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
らこのまのまもとまきぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
余路してはてあまぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
ひしやくそくぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
いしゆぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
まらぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ



の大河を境川の落のひふこくくみとくひてせれ  
あせられも東海のみきとひこくくひとせよ大  
つひよのそせれつひくくひなんぶとひこくく  
そのとくくくくくくくくくくくくくくくく  
川つてそくれなんくくくくくくくくくくく  
けられくくくくくくくくくくくくくくく  
いられがふくくくくくくくくくくくくく  
ひくくくくくくくくくくくくくくくく  
とくくくくくくくくくくくくくくくく  
まくくくくくくくくくくくくくくくく  
のふくくくくくくくくくくくくくくく  
まけくくくくくくくくくくくくくくく

卒就大勝のてびかひくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
のくくくくくくくくくくくくくくく  
とくくくくくくくくくくくくくくく  
なるくくくくくくくくくくくくくく  
て見られくくくくくくくくくくく  
らせたりくくくくくくくくくくく  
のくくくくくくくくくくくくくく  
けくくくくくくくくくくくくくく  
あくくくくくくくくくくくくくく  
候くくくくくくくくくくくくくく

なりつうまよせせつひんへしうろ夫小PA夫  
てやのなうを仕給ぬくは是を趣いせんさのちや  
うまさい勉のいふ一の中一志やうくそりふたり  
けり大將くんかく志やうくんまのめはうすらる  
こひ治ひて授うへてのりさう人とを治のし  
してちうら思とさりやふられうるふけよも山川  
まりたれし感し福可くおちよらとめしならよ  
のまけりうやわのせやうて平家十弟よりと二て  
まのつはくそよまう取さいめいつま志三回よ  
夫とひふまをてやりてむのりさうてるいあう  
らうをそつてけりや中へきんをやうりく  
あうらたの老をぬまふたうくふとつるをぬせい

ふ勝よりぬをぬそんくおおぢうそれか契の  
國をひえちりうくぬいあけくさてせめたれそ三  
ら山の一れけりひとて志う山うりまらん  
とらうまおくくの國をそれつるまやうとつ  
二の取のーやうらとく取やきつひてそと取ら  
まけりさうなむもととびふへしとまみえさり  
りりをりけく馬とたて都をけりてとすれあ  
れしつさみのく志れりたのめなうと趣いあす  
万よまいと二よまわりはてむりもれり小松の三  
位の中一おあまきり城おめうん見かちりきりこの  
このつともおり三人大御軍よと都合をせいせ  
万よれつくと志にちうくの所のひなるとかなと山

るそりくられけりさうまのりともくはりおとの  
つこぢりつひ他る寄つひあさ三人太志やうらむ  
よてはわうもせいで三教より一か山のてをりし先  
てふらう海ほくまのまもやしし六席みのわふ  
らもや馬頭たてく本書ぬらう中ひるそさりとも  
とらうぬはしりせひりあさやう紙をるいせん  
ちうらやうはさいめいひらう包こらうよよ  
てぬんぬうやめくまはぬるいあつこ此國まてこ  
さんるこてんとなまこさうりあしくらさうのま  
うまつたうれくこのふもやし柳原れひりみる  
うらつてはあもつよくぬたるうよてゆアしい  
そふひりし世路ふアしこ中あれし本書所るもと

てふ方へ入るせふこや紙はれあくぬとらうた  
まらりまそのめひけりるを平家大助までわらふ  
ことなまこまとあめく色川らう乃ひりみるうらむ  
はまのたうもゆこめてりあひのうつせんよそ  
あうしんぞらんこくうのあひれあこきんそ  
せいのぬりぶらうらもあはせらとつこよらうり  
てこのなまあうらうめをまもせとて十氣落人  
ゆふのぬらう一万余路とらう愈し三をりてを  
うら先てよまらまをされたれのこと紙田第よきこ  
てくおわのけらういここのさちまいるりしう  
ましくれけりまらたれ六席ちのくよ七すよ  
れをあらう愈てまららあさるをそびあられらる

みよなちりけりやまこの二帝七ふりれまくあく  
あさり魚びあられちりひさちりれ二君の母さつふ  
子ゆれましくりりうれたうのつしむまもつちり  
ねのつれこやたふせんよきんてまのなりのきん  
のここやーや百なりふひふくくを今井の空  
飛うゆひふふきんよまよてまこれー海張うりま  
りひのうやまやししあんとする本書や一万  
よきよてくあさりのきこのつれとやるのわい  
り張てまふゆのちりみらんとね本書ゆりりこ  
とふまつとまこさうとちれおにまよとまこさう  
張るれたてられふ月十一日乃れあくるちりちり  
くあさりれたうけりーまをつてまこさうた三す

けりまけりうりのまたりあへもまとみくあてや  
源氏のーらんやひりひてんちるそあくまよた  
うしたまもありくてううめしあうすくよのまし  
あさるのまうひすいひんともよあまめま家よ  
らん張れまて太せいみれ山中ーりやりあてら  
じとまらなりちるさそやハワこのちやまやう  
まよあれちりふらんとて空の張まと思ふいせ  
まなつふれまのまのまのまのまのまのまのま  
りまのまのまのまのまのまのまのまのまのま  
あーりまのまのまのまのまのまのまのまのま  
とめーてあれふみしう張れまやあろを伝抄とあ  
の免ちりまううやのまのまのまのまのまのま

志守りてなうあくの今ハしたまもPみをて小冊  
れやちちるをP也とてPのり  
まきそらうん志よのり

本書よりきかす一ツ一ツをきくればふたりあまりの  
くついとめ一せり一なり一ういといふよちちの  
三ハ幡大がさつ此浄やうせんおらのけふをりお  
川せんといはんやすれきれをうつをこりたのれ  
ふあつしといふころのまうりたあましくもん志  
よと一まうせしやと思ふさいつこつかとのつ  
つしりともゆく一たのなんとしてやうてふまうお  
つてふしといふぢつつをのまやううく  
まのられひこくさうくありともおののすらひ

とてふふといふふとのまてとめ三一やをふ寸のい  
り物ほらりれちちとてま坊田う一さくあつし  
乃矣即一らううお抄ひ片一ぬりあめとりのり  
まにもし見ほくつふと紙をぬきてたのひをよ  
あ忍ひくの甲一とらとてう、まはくうつと紙  
まそらうまふまほいひさ海川つしそつまうりたる  
教義のつしものまをまかへあをれみ哉二るの  
たつちやうれとまがのちまげらばかく免やう  
そりともゆあゆまのやまらん即くゆんは教人の  
みゆひりとてゆりらあお家一せさいせうい  
ひまうともてまほくくなんともゆけるる念れま  
三井ちる巻書を写して一やうとてくく進ん



はらじきんよとつて三たふじくうのしやたん  
張とつてなふきうんりめん志ゆくあここのな  
まけうとのしいやくうひがくまんまの海  
ぢちのけのうきもまそむおりんけらふううふ  
まけりひつこのつこみおりとれまのれあうんま  
張そうをうれまようくうりれつうのうまふ  
まハ機本糸とけりきうまのけのれまんちり  
うらそのままやうまへらまといふ事なりよ  
しなうのまうりしとておりぬをうしよけて  
幸ひひきくちまこ今ひりん張りぬまみをあの出  
こりまをうりたとなしぬいまのひとちりて  
りてまよりのまをうりたうらうまのまをうりて

まうまやふひのうのこまこまのぬを張れ  
まかたなめりてうま張とこますひとぬ子國の  
た光りてまを張とあまあんまれいなりま  
うすうまののゆしてぬしこままやうたうい  
まぬるまをぬいりりまをてのつこと張一  
可ふまのまのれぬまほうまうまあ人もしま  
まらりらんままやうまよふりぬひらんしんらま  
まをぬをくまらまらま一ののすいこまをぬめ  
してまのんのまをぬいこまのつれま

妻那二年二月十一日

源義仲

うやまやまとまらまのまをぬいこまのつれま  
うぬてハ機本糸とけりきうまのけのれまんちり

も一六ウれやハ幅大がさつちんちりりひり二  
なふとやもるうおせうらんちんちんちんちん  
うらと山と二とひきうつてらんしちんちんこの  
上ふアんまんすらんちんこのおこもやもがみくつこ  
こはくちれも一たのめなり午卒おれゆもをこん  
とみくちのあよらてそれおきりるもは源まれ  
うひまはてとつちひりくくちくちたりをあしひ  
五法のお二町録よちをさきこりりり卒おもすくま  
そらんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
もひらんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
りそまきこまきとすふりあう卒おのらんちんちん  
いへらんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

とひり魚をすきんと三十さとびりて三十ののぬ  
ら成ねへんを魚いりも三十さとつて三十  
りりらとといり魚を源成ふすふりこまきとす  
死とつて一両さ成ぶちし面さをやありすあ  
百式つくたそのおもてよをすみたりたりひふ  
うぬとせんりりりりりりりりりりりりりりり  
うぬとせんりりりりりりりりりりりりりりり  
よへてりりりりりりりりりりりりりりりりり  
さんとちける死とつて卒おもももももももも  
らひほくびりりりりりりりりりりりりりりり  
卒おのりりりりりりりりりりりりりりりりり  
らる福よと後れ後れ後れ後れ後れ後れ後れ後れ



みけらりうくのさうれうの魚はけりあひ河と  
しくそ川らりけりつたぬり田畠の母ひく六ふよ  
まよてひのましやうの時のふ急をそあもを  
ねんこ田畠よまのりとれり急よ山も川となく  
一交ふく川はくつちそふあくけりるいあや思ひ  
もろくぬとれのこと急ふあやろさてそななるはふ  
るそあやまけりふたなりと急せくしと急の  
やもあがりりまれやも大橋のいあやたらふ  
そとて急するのまれれをのり急せく  
おとくともあはれ親のれとせそ子とをすしりり  
向しせをらうともけく馬のう人よをひと人  
の上よを馬ありのこるりしくきり急よ急よ急よ

ふりふたふ一と平流のせいせがふれよとめあ  
あたらへうのすあれ子ふ見つこのつとももの  
こもまたあてそうあられくるされもりんぎん  
ちああ即しとついとつ紙あともつやうつらふ大  
將軍あまのりらとつらもりけりううう急命とあ  
すらとてつれ國あしひくれなれうあこのあ  
判あつつれひこの大夫判ありたうりしられ  
判あひくくあもはたよこううの急と急なれ  
しはたふ乃しんよを急のあれと急のきりこ  
り今ふありとも急れと急ふつら此國の急人い  
しう入九急すけうりけりそ急三九七七急の急  
ての急しつと急てうらと急と急んりり急と急

たもお母のるまかり中一もぬいせんちのらやう  
つらいつらふき一にりとのたらうこひやきもい  
あつらよけうちくれくれさついの涙をやりて本  
書りまへうひふすんでわうをさしねられたり  
わきあれしつげとらこ三子よんきりつげら本書  
れ泣ひうるもすい、お人ぬえとがれてぬう一ひあ  
けらうお母けのぬたれつさゆふてみんとし回  
万ふ死と日け二葉ふ死張ひふやうて志をれてる  
しうひつくれけ建ひそのみれと張うらわさこあ  
はやうかーしをゆーからてぬうさのわらくさ  
らさうけらふたまふえぬうらうらさうおてく  
とふさこひふんうおむきひくさうけまふこふた

とひしきうりくうひめひるほてましひつひの  
ふし一むつこはく二万ふたをそかく用一くお  
入てそとさけら一やれてるうりれうんと思  
あれしめんういこく十葉お人さうのまけてひ  
ふちりたさるのひまをそやき免けさあふ二葉  
よまへりの包てそつさこりてくうひたれをひ  
ありのけしとやあつれけんくの國ふひふこ  
つそふわくの志れけしらん張らる源氏つひ  
てせめたるよしひみ母坊三回のもすなれも原も  
ゆるうすてらひ日す一源平おとらう一やせめた  
たりふおつんちんちのあせなのけくあとなりの  
のしこくならあくこ平お三子よん人けあひふあ

源氏の如きも二か餘人うまおたり平家を  
取つたつせんふうり正あて地りくすりあり  
てそねがられける平家此のうやうひさし  
志の判者なり川なをふうせんのおち麻ふらむて  
うすれりけり今もなりぬれさいとうをつ  
きゆりじり一の三歳とそそんありらふた二  
ませしあむきくくうひりきり三歳丸湯門あり  
くおきけりたりりるるとこきてむりけりうれ  
たりひける矢二三十いたてられて太刀折さうさ  
まふはさしてさらきくみふうとまらたれんを  
さいとう初あさ孫とらなく一まらアしあしをて  
おくりふふしつふのびくうらむや一ふいせ

まうおんこのさいや皆落められたや一人のこ  
ましくまらていささすう人うひりくたれかの  
まの人とそあまうたんとし何ものうまらかのま  
といもれし是れおねけく國は信人てはり力太帝  
くれさ一のうのそりと名家さねとらさるその  
まやまきくまたりこれを思ふやうありてま  
となのれまうふうまらあをやくまんとてさ  
らつくとまらんとすうとらあてけりくらうと  
中一ふあはくまらさいとう初あさりくおたりあ  
まさはもりてけりくらうとを殺てくまら  
まらとあてくまらさいとう初あさりくおたりあ  
のうくまらとみくちまらまらとやまらたり



後のうたにさういふやされもうとあるにさういふうたも  
乃前もそのものうたもそのうたのひふまらんすから事  
と申すくつがらうりましくんりさ終りの目以て  
思つともそのあひて此物にこそとも終り六  
おのまわていくさのらんをいへんと此をひひ  
あさす見おらめていへんと思ふなりをゆるへ  
のこのほろおあつそひくをたをひく終りお  
けなり又おひひ志やとて人れあれはらん  
抑と申すはう海にふそりていひらそわう  
とせていへらん人へてしきと本書にうそとて  
里のひの地れおとてあつしきとみへ人そり  
そもくうつようとありなれまうとてのひ

たきとてさうとていふかと申すは部の  
此一問のうたのよりのさうとて一とせ  
東國のあんないへやばつてや一すりといへ  
まののありい事れひれとてらんよ今よ  
とさそらんやとてうらひひ今度水國包ま  
ひりてうらとていへるい今度水國包ま  
うりてうらとていへるい今度水國包ま  
てさ余のあも二とてい部をう包まらん  
さうとていふさぬとありとてい部の  
しりさんねん志よとてい部の  
のわお病にいらまうとてい部の  
うお病とてい部の

つ包れと申し申すの山物とさも志りるるうふこ  
こも一まのひくまの侍ゆるされをふくまのう  
少りぬしやと申すれもむいこのやあらくも申  
さる物りれとてししとゆらまのひかりひり  
乃志ぬといちんをよしとたれたりとさるまの  
いふんよひれや今いさねもりそふふさとま  
ていふと水國のらまふおろくもりや平家さんぬ  
れは丹ふひりれ志もを十方すれ同くふふおひ  
り包れぬがられ志もを二葉りれありもいれやり  
よし部と申す人くもつとけりまふとのこのや  
ても力を申しられ未れはらと敵ようつりつたれ  
へをれす志の子るりみりこのつにやもむりもり

たまはひぬたつれつりたつもり過らひたれ  
けはくしてせぬとて呵やおかくりやとうた  
るもついで年よやうがけしとやとやきてりる  
とれを御かくりあたまの頭りやり包れぬい年  
もやあれまのけりみらとらんちしとせうりくの  
こころを包らとるるをれとて人下あられり中  
ももつりまのりもささささいあられちやま  
しとちつれおとくきてお母ひこのおやとま  
おれとせむしとてりひたれうもりけりつ包れ  
けりうとてとまこれとおれ入るまを外家申  
を國が川あくよもあまをとおとくとてらくを  
子よとくれめしれつとてりるりて留まんあ

ゆき記るのふりきりし事ハのめりし事

ひろつふばりきりし事

おきりし六舟一日さいちゆちんされちんハ大吏  
おきなりとうのちりしとぬ上のちりしとちりし  
されて今交ひやうくたつりしと大吏交ひぬ  
なりしとちりしとぬ世とさきぬといちんきりしと  
きるなりしとのけしとちりしとぬといちぬきりし  
ぬあまらさらせぬひたつりしとすいしん天皇の  
けふ二十又三日は保勢の國わつちぬのふかり  
又十餘ハ川上ともついでぬりしと大吏けりしと  
ゆしとちりしとぬいしぬめりてちりしとぬいしぬ  
十又列三子七面又十又法のちんはさきやうなりし

中一とちりしとぬきりしとぬ大吏ちんなりしとぬ  
のし門乃ちんぬりしとぬいしぬなりしとぬけりしとぬ  
らのし門ハゆりしとぬぬいしぬなりしとぬきりしとぬ  
きりしとぬぬりしとぬぬいしぬのぬいしぬぬいしぬ  
ゆりしとぬ太宰のぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬ  
三年十月ハぬいしぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬ  
万のくじとぬいしぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬ  
ゆりしとぬ大吏ぬいしぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬ  
ぬいしぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬ  
きりしとぬ今交ひぬいしぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬ  
りしとぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬぬいしぬ  
りしとぬ天年ハ又年六舟三日ちりしとぬぬいしぬぬいしぬ

つふもんやんちくをうさうれたたりししよ  
かんこのまんとりそうこやうをしやうまうぶく  
かんしうわうちふのりりあひやくれしゆら  
かろしきわうきんこくろおまらつおそらの  
きくどらつりほらどひなくしきまりさうまては  
じうのひをせやゆらんこりのわうをとり  
ておれ中を入るととくまうあしきしき  
かんしうそうちやうひわほきとてりやくしん  
よりしよよてまられをいせありめま  
つうのこがまよつくえのたのれまをまり  
らんしう僧とてまきひのたふんあつたうの  
うのりしうと扱物をわこされらこ三人なり

何うしたう人のらんまうとまうあつてしう  
ましとまうつうあまもび人まてりわあ事し  
あしとまうたりうらやめて中しき  
同しふ十七年正月十日のびんあこし  
かくちのあつたれらわうあつた  
つふつとつふそらしきあしとまう  
あしとつりわうあまもとあつた  
としけらふうのびけらうとてり  
あつたまうれはとあつたせい  
たつととまうそつたあつた  
あつたつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた







た勝のせめとまぬつとまうしはとまうりんらん  
上乃ほらふうほとふとはほせむらにちちよあきを  
もんぬもやうのあもひさふもよりのいーあう  
既つれりきーとたまー井城ーなるふよて東國水  
國の係成ーつ一荒れやーらとのくー一とこーと  
じーとまゆんくまいととりんとがけす幾件去年  
の秋乃以すそふふるの派とあーちんーとつて  
ひとが川すもあやちあいのくふの住人志やうの  
空席なりりり教義のくんだうとつてーとこ  
まふこさうほろまもつあきーじらるるなりなり  
こつろふこふれらびーし派りては二万のいり  
派やありともんぬ平氏は事りまふらふよて大軍

とつしうつーしわくろくふさかひーり派別派別  
とがこくろくさうあたりとれけくあつらうのい  
ーとつてうつせんまもあまよとあけらまこい  
といわくれうら。楚らうーのいもーとまきふれ  
トーこたりでじらまのせつれらぬぬくーの  
きのきつれらひくさか秋の風もせうとやある  
のくく冬のおろづんようとあくさふおろーと  
ひとあふ神のぬりこのたすけりきりたあーか  
うくあやくれこうふあうとるいらすくふい  
かくのうんやすみやうよとあらくさくあつたなり  
しつれよしとあいしくのあつとくあつて  
ららくせうれらまふらうんやあつたあつて



此のよまゑすとうちんきんと云々流とつりあつ  
ひし係成すうのれらんやりのやのありに中  
小老僧のものをせんまゝるを我らしひひとさん  
さん一やうまうらんやう味さうの法さふらびと  
信のりまうるさうるは平家をたりのふのゆくと  
いせれ山門より出つてささやうをひくさるるれ  
を今おつるまゝののもん志やうとのまいれり  
まされともうくさやういりまも連志んりまも  
れりひまうりまうりてを國しくははらりすとい  
あまの魚てひしきのたのふげあがさるるけんし  
ち又まんけん瘦くのいくあふりうりてこうんめ  
いすそふひもあひんとんなんさしうらんひらるる

志ゆくうんはさこやう平家りうと人とせんす人あ  
らくらふらりしてまゑらうのまをひれのへし  
けん一うりあうりてをひかすいせこうが  
じうりせんまゝやうてをてうとさうとらりあ  
まうれ志やうりうりてをひかすいせこうが  
さんぬれ十回てう志やう物さうま十六回たうら  
いひ志いのあやた志のれりうりさうらまら小あ  
さんさうりつとまんぬまうりう平家一たうぬがわ  
くふよてはいいねんりういせ上りさうらんせひ夏  
たうらんあうあつてつたひうりあわくつす押巻  
いさうんりてをひかすいせこうがさうりてをひ  
かす志のれりまうりてをひかすいせこうが

一天ひきしと枝うらあふおしくまをいひうりて  
あじきんがえきらんこ川のほうまをぬうのこ  
ひひなふりこいさむれいさうふりあふま  
まらまさとれいたいぬひの流をほく人てまひこ  
いよあむひんらんれちんたうあく即一のさやう  
とめりら一もやまぬの流をあふる流の糸と玉  
まれて一ぬんのあうとよつをらういまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
いさまうつれいああつあれたつよこうとしと  
ふつやくとらんこりるあゆる一我山の志あ  
うけくりにまゆとひくともめいいたいのめ  
ひないすふりしらふよあかりおのまひく

よのほろびな一うらるもり流さう自ち能る  
トやうちうの佛はな結まらなやらくきの志ん  
いりうしりやうれりん一やうとらんたん  
とそりまやうれつ一あよやくす事流すい  
ふ志結ふとのかこやうあをせむりちいさうせん  
かい山王大神やもこ一こしやうもつアいのせい  
くまんまのまらざりうくけぬたうらうしし流  
とうあうたしよあをせむらにたうらうくまよま  
ひひのしととせくもんこんまやうれせん  
せりやうしてうてさちこつらんらん  
よらません流せしらんすらんのせんぬう  
らん流きてうのつよはひゆらにらんれ結

西志うくとひうぬんれつうーるもり包さん志ゆ  
まういのにじうーよてしつたらくちんのにじうー  
妻那二年七月日  
大志ゆら  
とそこのまうたりたる

平の流くまうし志よ流山つ包とくられくろり  
志福よ平流し係成れせいつらわうはくとふあしと  
りし各六波座うーせつひま望こそわいりくせん  
とそこのまうれりくうやくおんしやうもろりめ  
ひと少くめ流やうやうなれしうーらふともよも  
ひひひー山門き流流よとまや、ゆらうとうんせす  
流流も又さんりんよとよてあれた流ひともねそと  
て日志のやーろふ流書このまやそまうられりる

もーやうおつしくうやまや中  
うらうーま、日志社にりてうらうのこくー世曆の  
流もてうらうとてひと包うーらんといのり  
うばう流ありめたてまうつるつた事  
大流流のうくうーふふといとつこまひひもそ  
のゆ包いのん包なれをまうんややく年甲一は極  
流大皇てんもう大師あつうまてうのは流もん  
やくとむと何ーめ流ひーうーよてらまうていを  
てふと流流うくま太しを流山ふうりたかて  
一こよう流んとじりもうそんよひあめ流ひひよ  
まああのひ、久しめ流流もん志やうがまひくつと  
してまゆらうらんこま川のの流うらやうのまれい

筑まきこゝ今つづの國の政人きんのひやう忍乃  
あんのすけよきとももかたきりよく井をり包り  
くてもうけんをあさぢりとうちんもりまきの源氏ら  
ゆふりくうーなるゆ下やうとむまひくつらあり  
かんけいんあいそうーしてあひくさつふんこやう  
すいさこうこいこくを兼ゆつとまうのやうとそ  
およてうつをねつこらくじこうのあち城とひつ  
つこらうとまきうものひいよまうきくゆこまきな  
まらしくついとゆてあさちよせいもつをい  
たもちうれをまよむびぢくうくのちんちん  
ひねいまさこまをせせいほうてんけれ乃あて  
ひあされぬちしくりゆ入れりおたりもー

ゆつちんうひの味うまあすそつうてあうく  
とらうつのこいなたてんちくとりてひとをり  
てんたひの佛法とあふまふおこゆなう目者  
のちん、城々の又たてまつらぬあくのこまなるの  
おあれ乃あうせりと思ふうたあよりんをもんれ  
よといおあうとせやりこも、さやうすあしんらお  
らんううすくーちくうしくみほさく人こなり  
くはむう中城のほいじすまあんいよ山口殿ひ  
あうしー門の殿ひとーちやあひふとかりあらし  
一衆のつてたとりとー善い付憑おつふららひ  
と云うれぬとつひよらーをぬらんと物すーくさ  
つがとよのせつれとーとそま目の法あうぬくちと



うんをうしうりうりちととひきしそはお大  
衆のうり張さえしそあふとつしそ日あのをや  
ち延磨ちとうりうりうりちととししと  
あうりかき色じとつとじあのあうとああまへしり  
けまうしやまれりしえんとまゆねてりそつ魚の  
のよいゆうとりとめあつしうと乃せうらしり  
もつてもてくおのめん終いとゆねりあままぬり  
しくひ日吉れ山五七とやの王子ゆんそく東海ま  
ひ山のこほうきんちんなるひふいしうせんせい  
日光母光十ニちんしやうき二のめんととふうと  
ゆとらまらりしゆいしんらんちんせんれにん  
るしうまうとれちちしやわうあふしんのそまき  
と

とらんりんふけりゆかうくうんりの業わりの  
とあふたはけたしんまねくせうあつちんあま  
すてつめやよてとさいれちあうくだんれし  
うやまてまうと

妻那二年七月日

やうきてとれの内ち後ひのそりこうふト一衆れ  
んしとくきまんとまてしうとくられられ  
とまんとゆあれとあれひひひてさうかうしゆ  
とくしひろうしゆしゆすすせんちせんゆんゆんゆ  
やちんふ三日こちりてまはひろうぢう新何のつ  
とちりやもみしちちなる新書ゆうもまたんし  
しうし首りてふん

たつらつお花さくもともく〜ゆき

よしし包く、ゆくかたよりのみき

是れ山王太師のいれひとに連ゆひ三すのさゆと

らりうのあも世に〜るりされを回ほのあるらひ

志んよよのもふらひ〜しにすもまじさ〜りき

うらむとこりひうす大旅さ〜うそき産つわの

それ〜思ひたれを世に源成よ〜う志んさん

〜う〜う人そ今所〜うれきひれり包を〜

〜う〜とてし〜と〜せんといふ〜と〜

平家うやこむらのも〜

同〜十八日よち〜あ〜の〜あ〜ゆ〜ら〜い

乃びゆんれそのやもたつ〜あ〜て〜と〜ら〜は〜

〜う〜三すれとりし〜う〜して部包のわり

〜同〜ふた二日の戦軍〜う〜よ〜六波羅〜ん〜

〜りかた比うらり〜し〜や〜う〜ふ〜ま〜は〜

〜る〜人ののの〜す〜よ〜〜と〜え〜る〜い〜

〜い〜ゆ〜く〜と〜う〜さ〜つ〜あ〜し〜こ〜ひ〜

〜志〜し〜う〜の源成〜こ〜の志ん〜の〜

〜中〜とのありこれ〜を〜ん〜ゆ〜保〜え〜お〜ら〜ん〜

〜帝〜た〜め〜と〜と〜い〜く〜あ〜ふ〜ま〜あ〜て〜お〜ち〜

〜ゆ〜え〜の〜つ〜い〜ふ〜し〜う〜め〜は〜り〜ら〜る〜

〜の〜せ〜う〜ま〜な〜な〜れ〜ら〜り〜な〜め〜も〜

〜一〜き〜ん〜の〜ら〜ん〜し〜と〜と〜も〜あ〜す〜く〜

〜つ〜ら〜ひ〜げ〜ら〜の〜は〜や〜ら〜ん〜ひ〜ら〜

當義仲遊に代國まへにさへ入部合を勝す可なり  
東よりりてよみそくして人とともやまへに旅し  
大東原まのたての六赤らりたててんふ山をさ  
かひ乃かりてそうら階とてやうらとことしてさ  
すそよりみれやうとんしてすそふ都をせめ入  
とPよりりるゆるものや平氣是地也にちてて  
たすし新中一納言とともりた三徳中一物志ま  
ら川ゆり三子よりれよてむのふれりり字治をさ  
ぶり三徳みりりりねとりの三徳りつひ二子よま  
まへひりりれりりりりりりりりりりりりりり  
たたりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

よてよりりりりりりりりりりりりりりりりり  
夜代りりりりりりりりりりりりりりりりりり  
とてりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
もれりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
たのてりりりりりりりりりりりりりりりりり  
のたりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
せりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
とてりりりりりりりりりりりりりりりりりり

おそじふぬりつくれううあをたやうなるてが三  
ついじめんゆいよくまたまほよらふのきんめん  
一葉のめうきんりれそなふりしすあもたふ  
てがびりさ二十回目の秋あひのこふお母のあ  
のらんまいりんわんのわううせびふ六はうりけ  
とのるしきうせめひてさうとりさうあひつれ  
てけ世中一ありき海今をわううううひめま  
んくしう教れうらまをさうさうもなうめ  
と中一あられらん世まのあたまんくううあめ  
と二世あうきんううもむううんさうんしゆり  
うとめまともさひあくのあまなり集らせんし  
ややう思ひなりてらんと中されあれも女のん

とさめりもあぐらうらひゆさきまあふううと  
てゆたりのうらあ下れぬ海前まふまてくえうあ  
あへんあひいとのもふとて神しをれゆりふ  
そびうしけり法皇を平家のとををりて西國を  
あゆアしとを夏となひく望るてもやありけん  
あせられ大鏡言すけのこのとうくひたのうとま  
あられゆりうとゆともまてひそくふゆふ張ゆが  
ありてらうまのこのあゆまなり人そとこまを  
を平家のうやうひおさらさいさ色りんすあやま  
とが老きさうりくしえまのまて院もつうは  
つれのうらめを換えも法皇ちぬふ法をわくらさ  
ていなるのついでに法前乃のこなふとやらんもの

さうし叩くくはくめさあひ女もうさうの志のひよ  
うらなふなとさうれりさほもなうらんとふ  
く種す一法置れゆふもつらせぬふねをツツ  
うとす人のぬりるりさやらここつふふふふ  
ふふふてめれあさまうしと思ひつふふふふふ  
にまツつとておかいこのよばうしとPさしさう奉  
よものわりととをねもふれたれをつりまはは志よ  
をまかりて思ふつりせう衆の人ものよとわらせ  
つりす女もつりつらし二位汝たんこぬ以下一人を  
もたうふつりすねつりすやつりすやうひふふ  
ふれつりす志もつりつらせらうとP一人一人をか  
うらとつり法置れ志よまわらせらうとPか

とさうさうの志京中一あうさうなめなりさう  
ひや半流れ人ささしうれけさ海さの川つら  
をくくおしくさうり入たりやものさうりあれさふ  
まうの志さうしとをみも一平流れをぬんをさうら  
まうの志さうりて西國をわらめしとれさうれたれ  
まはらうやうおすささおほまひさうらう人を  
さのひまの下のあふいぬらぬむちささうれり  
れさうりてささやうわりのけらまをさうしをれを  
てのうらあふ目の外ふくまをさうしをれり  
まをさうしとせたりあれし志の上今年十六さい  
かなうせつりふふおひをさうしとめされらる志を  
うらんおひ志とさうし物の志をさうしとめらる

くまの海を舟りしやく時のぬに大志やうとらん  
しやうすくうふつこ致まてとるくきよと平大流  
玄阿志乃まやうけちさるれたれともあまうりまわ  
してくおおとま物のとをねのりまのりよ大納言  
とさよくのさやうくくろりとのやりこさめえの  
中おゆれそひ是らんくろりいんまひまひ  
さみくまやうのうまさるまきまけるを外の人  
んやねいこのを何のまりて幽清はりささる  
かのまのみれうのちうとまらひまきうせんをたひ  
してらふまきまきりせ末成りるをたゆしやう  
菊の初春にたてまうらあく夏のやうのわらし  
るのうもあがりつんとんとふひもももこうれ

いよそひふあきくくれ月ちるくくくくあ  
ついまさうの何とせれ及福原を部うつり  
とておくまさくおつとくまらましりつて  
かうるくかせんをうまも今う思ひたきまはれ  
まのしやうとのもまやうおしりくふしては  
ゆのうりあはうとう志の南れ口かかんよそひ  
修るゆひくさるんやうの清車のうれとよこあひ  
くしりりまにくく成りたすれまひくこの神の上  
よまの目やうふふ字そあうつまたり春の娘と書  
てさうすうあくよびか川あうれうあのみ目大の採  
乃まがらせゆひりりやれ乃もしと思はまけるふ  
うのやうにれいあにねんまそ

いふおせん母らのすぢ紫にりきり

うい番の目りまりのきくやみん

とたういおまきとせねししゆともりゆけり  
ちんぬ色のんちりのねりとあおおのりてはせれ中  
つうくはらんすらよねをいなるこのををい  
をりしすこしう一のすいゆうありと作もれしゆ  
色事し紙をりしてゆういひりつととあはせ  
よりたれを法車とらしせり大らやとのありよせ  
ありしとくお徳としてお山らうくぬんぬを入るゆ  
平家よりきりす中よも小松三徳中一ぬこれも  
こそ日はしりくぬしと思ひおうあられし  
中一なれいもこりあたるてけりなりしうまわり

水のゆきと中さま中一の流りの新大畑さなりら  
くれまやうの流びとめやうくよもくおもま  
連絡ひていなりこよとそれらりりりりりりり  
すりやころひてこりうんおもてよこひとなりり  
うらうのやうりみだれてすいひんりんあさあ  
さるよそがひまてもたぐひまへりりりりみし  
連たぬ三井中一将さるの中一のゆひるるるに  
れきりうい日しりりりりりりりりりりりりり  
て西國はひこおぢちゆまらうりりりりりりり  
くしきりたたれをみりりりりりりりりりりりり  
をたうりりりりりりりりりりりりりりりりり  
と死をいりりりりりりりりりりりりりりりりり

それより人をむりぬるはてまうつるやしたるひも  
うきもりはせふかなふものときくはしつゝふをう海  
なすりぬるふむりしすりのあらん人はとみく思  
てかともれたまのねさなふそれこそとととく思  
のふよしよのつゆたなふひなれそふらの路のけ  
車に人をかとりなりぬるされとさ海くおふ  
らるる人もまたのたことくは世事やもと  
汚るまひさうつとそそなりまけり三佐の中にお  
すふふいてんらへも水のこく神をひつとく  
のふひりるも都あをらるもなげもくもらすそ  
られまうそりのり又それふのみあつたおまをつり  
ならん人ももみこよふと承取らううらうらうら

日しるをあさうぬをうらりてなりぬるひの  
もたきとひこことまきぬうたのこをりておひ  
そあのみくけきもぬうここしうをらさりしよ  
つづのまたのひをりる人のむうやさかぬさあ  
れひつこときみかつづもつよまりふりりせめて  
我方ひとことなりもすてられなふかろ種と思ひこ  
つてももくまをなはんまうつあもあなふんは張を  
たきふちゆつりのつりおひれとてとくめさふふ  
そやなまのりくもすてのみおのめとてつづらう  
ら思つるをあさひけりなふひりるはうらさん  
思の中おをきんし、なぐも思われなれまじし  
不火の中あううとまてともよまはみりか



あつわりき地とと流くれえんうく志とく思を  
やもりくれしうふの川せんのよををまらとゆり  
ひくへて我かふりあつぬいあつゆとのひささとの  
とさぬさうしぬさひのうらおひひさやしてうふめ  
と見えんるすの心うけふやと老をえまを海ありと  
上今夜をうれらういをも係付をのひあまうてし  
り色の人とまらにまふへしふや換くうりあうら  
を流さやぶられける中一門うて袖のくすすをふ  
いてんくく人きわのまきと秘めきと何くすのて  
流ひてらくのまらひの神くささこまよとをけふね  
ひく是ちつうらるそや我をゆうんこまさひはく  
なみ流ひけるまそ三佐の中一将うふ世のまらお

さしつとさう思ひとくまけるうんうのあさく新  
三佐の中一おまけをりた中一ぬまよつひ新せし  
志やうありまららんあのをくうなくぬさひらう  
の守を流もりえ申ふ人馬おたりなうく大もそふ  
ひうを流くゆきをさうふのひさせお何うま  
てゆくふとや今まそやうあくよ中あもれあ  
れく三ぬのちうしやうとん力まきしおふひさよせ  
う幾うられてすそふしうられりくう人ひらう  
三手此りすまそえらとさううらあをてのれは流ん  
さくやふりかろくふのなうとくうまてと流里ゆ  
まらあの内おさなふそのまもれあまうりまきひひと  
とわうのうらるるとんやを流くほしううんこま



あつりきつる人へやまに張れぬめをくたふもさ  
こあたりしるものまをうりまに揃うしういそん  
やあまをく小張りあつこく今けらるもの目くれお  
ねもこころふありも押しつるもめこつていひつ  
きこせしうりやりのなふゆひまこ恐れみくわうこ  
おとこまうてさいいのさひれさら日てもふく  
うざたつたておはきてもたふまくやうもそ忘や  
れけらまほいしうりけの大細さしをそりし人あ  
こしくすつげとのふ火うけ三面ふれをひまく  
トヤおちられけらる島母の南れつうてはうく思  
もれらんありもこのあつてまはさおとめとてを  
と都包へ送ふお中一の二歳ひやう色のせりきり

つよの毛とみまうておやいとものまのひらきいあ  
とやくとおんらせびうりまはあはあさふらひひの  
所をまうてとくまりはられしつげぬまていそそ  
連入てらんしきふくひにそらあきりふよくう候  
ト冬一すりつうけいもやとやれをねいとの  
トトしくももさなくをありけんぬらうらう  
おんまをすれ今あのものありき海張見りしてすしを  
とまらんすちやうはくや中しくやううたふと  
よつすおに徳中一おをりふとのう人もお松ぬ  
乃きんちちもいまこ一休とみこせれはうあ  
ひつすしちたれをねつてせしむはうけい  
思つれらるうりまや新中一徳言やもりのまのすさ

世のりや日比もちあがりしとを思ひまのちも  
るがかれを都といてくいまも一日ははふをぬも  
んく心のみふりもあつたれなればはな  
てきさうのうんすもめく都のりやも  
あつたをちるをうらとほつたをてはあつたを  
しと世はほつたは思ひけるまじもあつた  
と思ひてあつたやいあの大言もあつたを  
乃女院仁和寺にぬえぬわらせぬひら  
る人あつたもらせぬひら女院の法苑に  
いふやうのほつたはあつたを思ひける  
てあつたもあつたといふもあつたを  
あつたといふもあつたを思ひける

いこうやたのちもあつたを思ひける  
あんのちもあつたを思ひける  
くくれひやうのちもあつたを思ひける  
あまのちもあつたを思ひける  
うへハ幡たかさつたを思ひける  
のちもあつたを思ひける  
てあつたを思ひける  
あつたを思ひける  
うひてちるひくはあつたを思ひける  
ひくあつたを思ひける  
あつたを思ひける  
あつたを思ひける  
あつたを思ひける

志よ此源氏をいひつゝあつてはかうして大御さへ口  
乃人よををかんびひのわがをいふもいひもいひも  
ぬじらそししたまひたる

あまきのりのしひろくさきふりたもいひ  
かゝうも志の里のたまつてのちりれちやく  
まれつとつてのまさをさうせうの時仁おちのほこ  
ろのしあやけいれもれしをうしらのまされつと  
あふ今一寝まをも見たりせよやとおもはれあ  
れし一門れんてふされちて都をつておまされ  
れとらんまもぬるそんつとまひるもかひたさら  
よつんれんまもおほいします人かれしとそれをふ  
しとあうむくぬおへしつとまひる人て事しの

りしとつとくひりされたれしつとつとつと  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
られつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
きらつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
をんかすのあまりてまのつとつとつとつとつと  
ほうらつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
ふまうらつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
かきまひのちんとならぬくゆ十三の年つとつと  
ぬをぬししつとつとつとつとつとつとつとつと  
しなつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
きんつとつとつとつとつとつとつとつとつと





のぞきあれありてちくのふろ紙をながとれうこよ  
志のめほくらんやうせうらんとしてしとゆるふ  
くそつこちのりくをねちちのりふとくまをて代  
代れは門のほくうとなら村上天皇の清字文極  
四年の秋のなりもせいのやうぬの月の秋の門  
けんやう紙あうもふれくるふと紙本一新月  
志ろくさききふりふとやう紙うつくのり紙紙  
ゆりまよあ人一人あまよくたりて志やうの紙ゆ  
しと紙の更のやうつつ清らん志なれよる人やも  
ほりめされぬしなんらやうのやうのうと係せ  
たれしとさうのひものうのせれとせうゆせと  
ひんうへたうの紙とさうくを州たししふ今一と

うくとけりまく清く人さうしとて海にうふ  
おちてらんこんを今家とさきめよ思のやう清ひ  
しと紙まてまつとらりてはまりすれちうのひ  
まよくとし思の紙とふ紙くを紙かしとて紙あふ  
たてられらりけりせの紙と紙てしふかきしと  
ひせれしやりのとらる紙とひえよを紙天子よ  
たをまりてうふあまやうとさう紙うけらされ  
しと紙してつよしくあのから紙清ひちうありて  
代この思の紙とふ紙たらまらりしとつきの清  
代よの清ひちの紙とまらる紙と紙清ひちうらん  
ぬちさうらうせうと紙清ひあひれうみちりた  
川ちやうしれ紙とあらしくしと紙とられりすと



そぬれつひまさこ十せり辛うさのうやれしうち  
やゝ忍のちよく一はたぐまじししもはぬひ  
しともがひてさうしうはあううハ暢大がさう  
のゆほうせんうしうひくれらたれそのやれ  
ととりうすうさまでみんはあやうしやもれ  
家人と習うよくうれ神とあうしうひのひを  
あまのたんのうひはししのしれりうんの  
えうしあふれ本のみまきりうさきひの月とり  
里のくゆるしうひのくさならあまれ  
さうこのあうこのうさの事  
さうまのうさくねりしうくよるうぬこふた  
らんさうりしきふらひぬまはうし一人しう

てみ糸の三佐しゆしせつれまやうのりとう  
ちもちてのとんははししゆうらうくえらくねり  
とPとののまりてはつ張をかひうし建儀をあの  
さうまをさうせうくとPされうさの建し三佐  
さうも一ありしんはうしううしうへPせ  
とて門とひらきそへぬひたのちんありあくはり  
ううれ目のちやううくはまやんちうしうまのひ  
しゆしゆはくさくはらとまぬひらにうさうし  
このてのうとさくはれありありさうつたの  
うしゆしゆはくさう年暮Pしゆはうしゆは  
切らうのうもはつひまじしゆしゆしゆも  
はあに年暮あくのうしゆさうまくのひされひと

るよ蒲菰のたの上のてんるそつやいぬうしす  
とん中なうつつゆもを事りあるこもゆのすそ  
もくちらうくせんりあるつふらうゆは借しお  
代れみせんつそふくてもゆのむくゆ一ししのふ  
けさとらんさうよい悉すそふ部とつてう後結ふ  
うへし今し聖をよしぬとゆうせんすうまはか  
も又にすらゆのこもゆのすもせしつまをてのり  
らしくせんりゆさゆつくは中しうさりぬてか  
拙いさく一しゆありともゆをんふありありまれ  
うけましもうれしや思ひをりゆもくと後まゆま  
きりやううまり事くはゆんすれとてうらひむ  
たごんの神もちまさと拙と一とらやうてふゆんて

つれさやうふまう三位ひうさて思か人も百た  
ゆのうくしそつくまも三位今よけ一のぬは長  
とも中なうつたつたそうあきの中し思る目ま  
まぬれむしありゆくをぬんちよくせんし事し  
よとふてまをちんりぬ？ゆゆまやまやうこつを  
ゆゆゆもくそつやまぬるうすらのゆひたれ  
やにつた乃守太ふらうひゆひて今き野意ふの  
まぬとさうさうさらせゆうゆいのそこらも志の  
まもあゆ先あんしやうよ思ひまくるゆゆりすし  
世の目しんしう只今ゆりうまゆゆも来せよを  
まゆれらひ一茶をんつらてあふしこらしゆとら  
まゆとてゆてられあれしこぬさうゆれうとゆ

志ろとらるしくと見えとらり給ひて海をくさく  
くくれらうとらるなり  
せんとはくはしおりのしとのゆよる  
れらも入りす  
とれうらうお色いきりれを三徳といとあ  
もれ小思ひて海をくさくつらふをなせと  
まきてふ流れはらうくまんわりのつたふさのし  
うなれなりは中ふれにまのうそのお首う入  
られりるむさくせのみにていうなりたれとあま  
れも入なくやおもつれたれをうれ方らうくし  
の人なれをせくをそれとやうとたふもつ  
らもそれとらうと人たうとをへられりるこまや

うらたのつとたいとりてよまれらうとらり  
あくなきやまくれ部そのれふ一城  
びりなうくれとらう  
をかてうてまやなりうと上をこしよまよつす  
やしのひなうらうらりおとらとと事らるり  
手流とらまのる  
あはれと小水松三徳中一将あれりりまやうと  
六さ教命と面うれけらりみちふうてつてあふと  
とやうてうの程ふとくの六うけうの道よてそ  
初巻をそとひはま乗られらるおゆいとくの三徳中  
将とまらうあゆひてせまうまをまよてなとや今  
まてとのの人を扱さなふものとも乃めまらう

きくひほくはとわううーらむとくしんや徳を修る  
福よと申されらるるもねしわれむうやおとひ奥く  
志業らせつらんぬつせのねつし申おの末とてき  
この申うらすらんやとてやふりつとさうのお  
みことさいとくしんうみしられられ平家都をれ  
はるきて六ひつりけぬ小松殿西八条上段をり  
されしうらふと天ふみらくて日れひつりと  
みことさりりく成させし志のまんぬれらるりや  
うたのむすしとす人とのあーらんよとくあ  
らばとくめつらひやこうひやうえんの見えりや  
つせうもうの商いぬつらひとくえふてふれあえ  
うきふらうとわうぬらやうりといやとんてり

きくひほくはとわううーらむとくしんや徳を修る  
福よと申されらるるもねしわれむうやおとひ奥く  
志業らせつらんぬつせのねつし申おの末とてき  
この申うらすらんやとてやふりつとさうのお  
みことさいとくしんうみしられられ平家都をれ  
はるきて六ひつりけぬ小松殿西八条上段をり  
されしうらふと天ふみらくて日れひつりと  
みことさりりく成させし志のまんぬれらるりや  
うたのむすしとす人とのあーらんよとくあ  
らばとくめつらひやこうひやうえんの見えりや  
つせうもうの商いぬつらひとくえふてふれあえ  
うきふらうとわうぬらやうりといやとんてり

とたのこちのとももつりれふあは是とうまにれ  
らうこのつりけつらまはやしらまらよまの部の部を  
まといひつてしなくくじらのさうのひよかたよせん  
ときふのふしを上げぬとくこくしんはうのちのち  
母といちくくつりけつらまはやしらまらよまの部の部を  
と保えまはるるを平家義光とさうへし。義和  
妻那の今し又秋の義和とちりつてぬこは東國の  
大名小倉たりや。部よひたりひのこの大名よる  
し。ち山乃志やうし。たけり。れ。く。よ。山田れ  
初あつり志まうのれまのさ忍りん。と。つれ。あり  
あま。う。東國。子。もの。さ。け。ま。し。ゆ。こ。う。し。源  
氏。う。こ。う。ち。ん。せん。と。う。ん。と。て。治。政。の。う。あ。ま。り。に

め。このめられて。な。なる。の。平家。部。を。押。う。られ。け。る  
お。ち。が。い。と。め。の。れ。ら。の。お。う。を。と。し。ね。ん。と。の。け。ひ  
け。る。成。平。大。畑。之。新。中。一。細。言。広。の。め。ひ。や。こ。う。し。う  
ま。ら。十。人。百。人。こ。う。で。こ。う。の。ひ。て。ゆ。く。も。ゆ。う。ん。は。さ  
う。あ。は。ひ。な。を。ゆ。せ。お。さ。め。ら。れ。ん。も。一。も。あ。り。し。し  
一。と。ま。う。の。さ。い。と。と。と。の。東。玉。う。の。あ。り。て。ま。け  
う。ん。事。一。う。の。の。ん。お。う。ん。う。ま。あ。て。は。ゆ。る。さ  
ま。ら。ん。の。し。と。や。あ。ま。れ。た。れ。も。お。母。や。の。の。ち。の。う  
と。う。の。け。り。す。う。ま。ら。新。ゆ。り。し。東。國。を。こ。う。と。さ  
ま。れ。た。れ。あ。ま。う。の。名。跡。を。と。し。思。ま。う。さ。く。し。と。の  
あ。う。ま。の。け。し。ま。う。は。さ。う。り。は。ま。り。ち。の。お。母。い  
と。の。ま。や。く。と。う。ま。れ。し。と。ね。る。う。の。お。母。い



のりこきよめこのつられりと清原ひらうりつら見  
と終まり終人太夫まりとらたつふあつとまり僧よ  
そ二おの僧部ちんちん中一綱言のり川一ーらう  
らまいかのじり志の志ゆきやうりうとんさやう  
しゆまののあしやまゆりとんしんまふひまを色  
川あられぢんことりとと二飛ひやうとんりけさ  
源たつふれ判及す色ゆく流り判及もりす見さら  
ないさゝりんす色やまとうおいさ色とんす色く  
お派き流りしてひひとの人て百六十三人部合を  
勝せよよさは是あは二三の年りる東國水國のうつ  
まへよりりとらされて且流りおのこ流るり小  
松中將まやうないの外をねねやとく流り一免兼

こみれさいこととととられりつふさ海れさのこ  
ううとられ西とととねも也ま流もうりひ小  
神ととぬりーりくあうとんぬたいのらうをん  
は日此のりー見えたりと止すらとみられまがの  
しくま流ふとくうひて打ちめらるうあられぬ  
連たりふと色ゆやーふもくうーあとのとり色こ  
みくきれつととと見えとやうさりたり香うーあと  
う色つ見え人へや教やあ少りのみむがうくさらの  
不流さうふのうとなくねり  
けりな一やめーさくもぬとわ、流まを  
あやまきさふさやうらねが流るり  
志のまの太夫つゆり

あふさふ紙やあはくけくやうをこまく  
すゑもあふさふのなとらとてめ

海にふふんて部族を一つんらんらん  
はてはくせんともはれくもらんともひのまらん  
ひのうらとてしりてあもれはり後後守り  
りしそししちりよ源成まときてげちららん  
ても勝七面ふれとてけひいりりひの夏  
まてわりくるるそとて部をたかたはまの  
さうらのけししそとて部をまのひつりさ馬よ  
里よりひりおがひとてはあよまうてしり  
こまつつ地をそとておちらさせのひ併うや西國の  
たるれらさそびうとてあひのひ余のたも

せはふつかり中をわらんてあくしりこま  
聖よりしぬとさうさせはもんすりは事一紙を  
うしとさ思ふいりすやとてあはもはぬいり  
たよりしといまこさくそや本書りりなるのふ  
國まてみられ入てとせふふ教ふれまうのり  
みらくとさやせんらんてんたふ山よふ甲ひの  
かてそうらんぬんぬーやうらまくら山そ  
やうらんてすそふらやふをせめい紙  
まつれしとのくろかりりなうそ  
まのあたらんこふうまのそとてまうきん事  
ひうらふつぬらぬまてともてあ思ふはゆる  
まそのあひりさうらうらうらうらうら





いふもいぬれなだてまわりさういふもすてられま  
いりきて都の初りふつてなまのよよとくふらふお  
ちんやるりやううんきなふらたのともあきおぼ  
まやもあつひやさんちんのふーみだふいなる  
もありちうたいのううおんらまきふるさともあり一  
しゆれりうーやとるまきんせのうさりあさり  
らぬ一めのまのまをびとゆたにーやうのまん程  
あうーきれをーたんあさうひぬを門あくよあ  
らすすそふれりううてんぬあ人ありのりんし  
じちやうのいーをアしおんしふよてわんく  
をのちり見えたのまひはふてつうーひさんさむ  
まひこらんやあしほくうりまよまんしほり

けんかへーととるまきんせのうさりあさり  
わさうせつるし野のすまお下のおくまてもまや  
うりうのゆもほのまうらんちんおもりなや  
のゆひたれしみふーうぬいぬお町てりりる  
あやーれとらあれまれよつこぬまをんてや  
まごぬぬひとゆんぬありとまううあれ  
まうれいんやあんぬんてりてのうれこ  
とまらまうんしゆはあうまほつてまう人まは二十  
よ年ーいしぬもく見えぬ三下とりぬまみは  
るりひとぬりきまこのゆをんけうすとりあま  
かーられしをまのりてううのりてまういぬうら  
いてんちくししたんまてまゆともほぬうまう



時世と東山の世にのぬりともくつとみとなく包  
て今日しさいのいりなきをうりてとつれ然  
とくうくくし海くこまゆかそあまれたくを  
乃ゆふもやうおれへのちうのちのけさのいふ  
まさくくよするなととそておややうる後  
年の母らとゆふとにをひー乃いふとてのふ  
見みくよぬぬくるゆれ一とてあふれをもよが  
ちあくろをさくまうめさくの事りなうんり  
いらしくとてさいてんをておくれかんとん  
こつうせれふおるくつて母海よりうりふ  
らくかたなとと日あ志がふひのれくゆくあそ  
じてんちよさう乃がれ日うすふまう部を志くい

ふさんぜんげとと撫たてけくくもぬのよそよそ  
なりよりるるくふぬと思ふおもつふまぬも  
れをなとこりちろえとちれなとのう人おひま  
いさる成みくさんかんのりり乃中一将のそ  
みこのほくそて事とひらんねとひつまうふ部  
島もやこりれなり妻永二年七月二十三日入  
外れおくよ平家部とちらりてぬなり

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Main body of handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of text.

110X  
123  
9